



2026 年 10 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社ライトアップ
代表者名 代表取締役社長 白石 崇
(コード：6580 東証グロース)
問合せ先 取締役最高財務責任者 村越 亨
(TEL. 03-5784-0700)

企業の情報・サービスを外部の AI から使えるようにする 「MCP 構築サービス」の提供開始について

～自社サービスでの実装知見をもとに、企業と AI の新たな接点づくりを支援～

株式会社ライトアップ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：白石崇）は、企業が自社の情報やサービスを、取引先や顧客企業が利用する生成 AI から直接参照・操作できる状態にする、MCP（Model Context Protocol）サーバーの構築支援サービス「MCP 構築サービス」の提供を、本日より開始いたしましたので、お知らせいたします。

本サービスは、当社が自社 AI サービスで先行して実装・運用してきた仕組みを、他の企業向けに提供するものです。自社サービスで実装した仕組みを外部提供へ展開する節目となることから、投資家の皆様に向けてお知らせするものです。

本件のポイント

- ・企業の情報・サービスを、取引先や顧客企業の生成 AI から直接使えるようにする接続口（MCP サーバー）の設計・構築・運用支援を、本日より開始。
- ・当社が 2026 年 9 月より自社 AI サービスで実装・運用している仕組みを他社向けに提供するものであり、自社実装からの製品化に位置づけられる。
- ・既存の AI 受託開発と同一の体制で提供し、代理店ネットワークを通じて提供面を拡大。

1. 本サービスの位置づけと背景

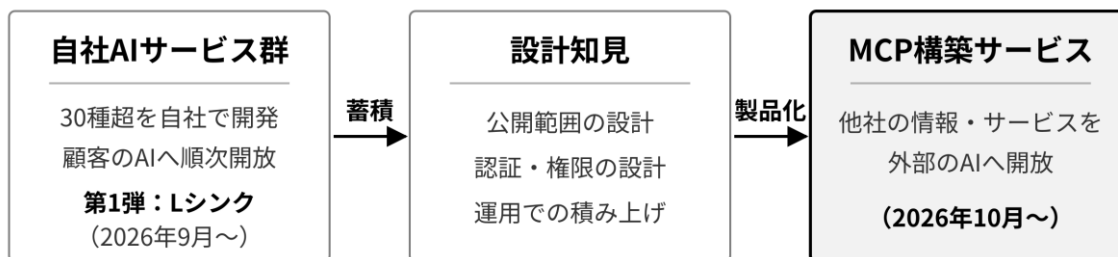
情報の収集や比較検討、業務の操作を生成 AI に任せる場面が広がりつつあります。その一方で、企業の情報やサービスの多くは、人が Web サイトや管理画面から利用することを前提としたものであり、取引先や顧客が使う生成 AI から直接参照・操作できる接点を持つ企業は、まだ限られています。生成 AI を通じた利用が広がるほど、AI に向けた接点を持つかどうか、企業とその取引先・顧客との関係に影響していくと当社は考えております。

MCP（Model Context Protocol）は、生成 AI と外部のデータやシステムをつなぐための共通規格であり、2024 年 11 月に Anthropic 社がオープン標準として公開しました。現在では主要な生成 AI サービスが対応しており、企業が MCP に対応した接続口（MCP サーバー）を一度公開すれば、外部の企業はそれぞれが使う生成 AI から、共通の規格でその企業の情報やサービスを利用できるようになります。

当社は、自社で開発・提供する AI サービスについて順次 MCP 対応を進めており、2026 年 9 月 14 日には、その第 1 弾として LINE 公式アカウントの顧客対応 AI「L シンク」を MCP に対応させ、L シンクの導入企業が普段使っている生成 AI から、同サービスの設定を直接操作できるようにいたしました。本サー

ビスは、この自社サービスでの実装と運用を通じて得た知見をもとに、同様の仕組みを他の企業向けに構築するものです（図1）。

図1 本サービスの位置づけ

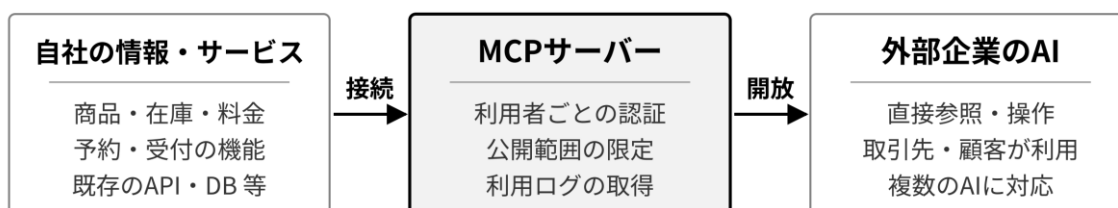


自社サービスで開放した仕組みを、他社向けに製品化

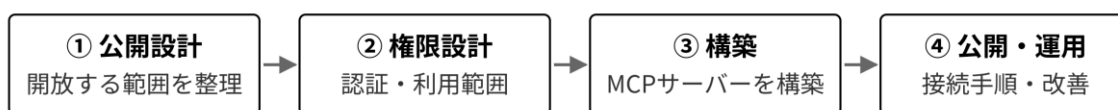
2. 本サービスの概要

本サービスは、導入企業が自社の情報・サービスを外部企業の生成AIから利用できる状態にするまでを、設計から運用まで一貫して支援するものです（図2）。

図2 本サービスの仕組みと支援範囲（図中の情報・機能は例示）



当社の支援範囲（設計から運用まで）



一度公開すれば、外部企業のさまざまなAIから共通の規格で使える

- ・公開設計：

外部のAIに開放する情報・機能の範囲を整理します。

- ・権限設計：

外部の利用者ごとの認証、参照と操作の区分、利用ログの取得方針を設計に含めます。

- ・構築：

既存のAPI、データベース、スプレッドシート等と接続するMCPサーバーを構築します。

- ・公開・運用：

外部の利用者向けに接続手順を整備し、公開後の利用状況に応じた改善を行います。

どの情報・機能を開放し、どこから先を制限するかは、導入企業とともに設計段階で明文化したうえ

で構築いたします。

3. 当社の優位性

当社は 30 種を超える AI サービスを自社で開発・提供しており、その一部をすでに導入企業の生成 AI へ開放し、運用しております。外部の AI に何を開放し、どこから先を制限するかという線引きを、検証ではなく自社サービスの運用として積み重ねていることが、本サービスの基盤です。

また、開放する範囲を絞って小さく始め、利用状況に応じて段階的に拡張する進め方を標準としており、中小企業の規模と予算にも対応いたします。顧客データベース 15 万社、全国の代理店ネットワーク 1,500 社という提供基盤を有することも、当社の強みです。

4. 今後の展望

当社は、本サービスで得られた構築実績をもとに、業種や公開する情報の種類ごとの構成をテンプレートとして整備し、導入期間の短縮を図ってまいります。あわせて、自社 AI サービス群の MCP 対応を引き続き進めるとともに、代理店ネットワークを通じた提供面の拡大を図ってまいります。

「全国、全ての中小企業を黒字にする」というビジョンのもと、生成 AI を通じた企業間の新たな接点づくりを、中小企業へ届けてまいります。

※上記の展開時期および内容は現時点の計画であり、進捗状況等により変更となる可能性があります。

5. 当社の業績に与える影響

本件が当社の業績に与える影響は軽微であります。

※MCP (Model Context Protocol) は、Anthropic 社が公開したオープン標準です。「LINE」は、LINE ヤフー株式会社の商標または登録商標です。

以 上